

## カリキュラム、カリキュラム、カリキュラム

ーフィンランドで考える(3)ー

開倫塾

塾長 林 明夫

Q：フィンランドには何をするために行ったのですか。

A：(林明夫。以下略)5月21日から24日まで、ムーミン博物館とレーニン博物館のあるタンペレ市で開かれた「第2回世界カリキュラム研究会議」に参加のためです。この会議は、「カリキュラム研究推進国際協会 IAACS(www.iaacs.org)」の協力のもとに「タンペレ大学教育学部(www.uta.fi)」が開催したものです。3年毎の開催で、2003年の上海に続き2回目の世界会議でした。参加者は282名。使用言語は英語で、日本からは7名の参加でした。

テーマは「カリキュラム研究における国際的及び世界的挑戦」。文化的な背景や国境を越えて、カリキュラムについて最先端の議論をし交流を深めることは、各国の教育の発展に寄与するだけでなく、世界的な規模で発生する問題に対処することにも役立つとの考えに基づくテーマ設定のようでした。

Q：林さんはなぜこの会議に参加したのですか。

A：開倫塾では、経営品質の一分野である「教育経営品質」の向上に取り組んでいます。そこで、「教育機関の経営の品質は何によって決定されるか」をたえず考えております。

政策研究大学院の岡本薫先生は、学校教育の質を決めるものとして①カリキュラムの質、②先生の質、③スクールマネジメントの質の3点を、国際的な見地からあげておられます(岡本薫著「日本を滅ぼす現代の教育論議」講談社現代新書、2006年1月刊P.17)。私は、公立学校と同じように学習塾や予備校、私立学校でもこの3つの質は重要と考えます。

学校の場合には①と②は文科省に担当の課がおかれるが、③は担当の課がなく、これこそが日本の問題であると岡本先生は議論をすすめておられます。しかし、学習塾や予備校の場合には、③のスクールマネジメントを追い求めすぎて、①の「カリキュラムの質」や②の「先生の質」をどうしたらよいのかについては腰を落ち着けて考えてこなかったと以前から思い続けていました。

開倫塾にとって、また学習塾にとって、「カリキュラム」とはいったい何であるのか、根本のところから考えてはじめて、「先生の質」とは何かが考えられるのではないか。「先生の質」を高めるためには「先生の教育(Teacher Education)」が不可欠であるが、その「先生の教育」にも「カリキュラム」が不可欠ではないのか。世界の最先端では、児童・生徒のための「カリキュラム」や「先生の教育」のための「カリキュラム」はどのようになっているのだろうか。このように、「カリキ

ュラム」について強い興味と関心をもっていましたので、この会議に参加しました。

**Q：フィンランドでは、学校のカリキュラムはどうなっているのですか。**

A：1990年代の半ばまでは、すべて国の決めたカリキュラム通り各学校でも教えるように文部省により指示されていました。しかし、「地方分権」がすすみ、教えるべき最低基準については国が明示はするものの、先生の採用から始まってカリキュラムの詳細はすべて、学校単位で、校長が中心となり先生方と相談の上決めるように制度が変更になりました。その結果の一つが、OECDのPISA(学力到達度テスト)でフィンランドが世界一になったことです。カリキュラムを考えることは、教育成果と大いに関係があると言えます。

日本でも今後は教育の分野でも「地方分権」がすすみますので、フィンランドのカリキュラム改革は参考になります。

**Q：学習塾、予備校、私立学校の経営者の皆様に一言どうぞ。**

A：「教育、教育、教育」と「教育」の大切さを言うのであれば、「カリキュラム、カリキュラム、カリキュラム」と、その内容である「カリキュラム」の重要性を我々こそ再認識すべきだと思います。そこで、来年度に備えて、今月からでもトップ直轄のプロジェクトチームを組み、創業の精神を踏まえて、次の時代に合う「カリキュラム」とは何かを0(ゼロ)から考え直せば、質の高い独自性のある教育内容を我々の顧客である生徒や保護者、地域社会の皆様を示すことができると考えます。よく考えれば、「カリキュラム」こそあらゆる教育機関の「コアコンピタンス」なのです。私も努力致しますので、皆様もどうか頑張ってください。

**Q：最後に、「カリキュラム」の本を一冊紹介して下さい。**

A：安彦忠彦著「改訂版 教育課程編成論—学校は何を学ぶところか—」2006年3月20日放送大学教育振興会刊 2100円を、まずはお勧めします。放送大学大学院のテキストですので、興味のある方は放送大学大学院の科目履修生になることも面白いと思います。

先ほどの岡本薫先生の本は、ノートをとりながら読むべき教育関係者の必読書と考えます。フィンランドの会議の内容は、IAACSのホームページで御覧下さい。(但しすべて英語です)

— 2006年5月29日、三田共用会議所にて記す —